

下水道事業

2024/2/5

京田辺市上下水道事業経営審議会（第2回）

（参考資料：下水道の役割等）



1. 下水道の役割
2. 下水道事業の沿革
3. 下水道施設の状況

1. 下水道の役割

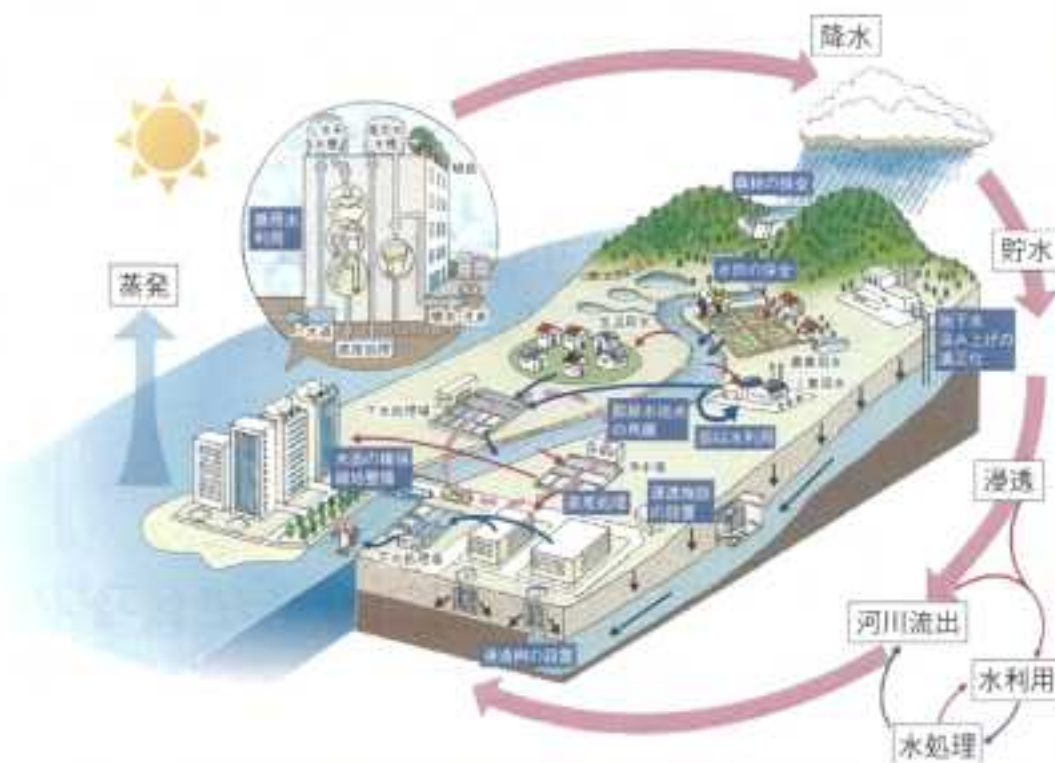
下水道事業

水の循環

水は、雨として空から大地に降り注ぎ、川や地下水となり、生活水となります。生活排水や川はいずれも海に流れますが、いろいろなところで蒸発して、やがてそれらが雲となって、再び雨になります。

このように水は循環しており、生活排水などが原因で魚が住めないような河川となってしまうことがあります。

下水道により水をきれいにし、川や海へ放流し、自然界のバランスを保つことが大切です。



1. 下水道の役割

下水道事業

公衆衛生の向上

生活や生産活動で発生する汚水をすみやかに排除し、公衆衛生の向上を図る。

生活環境の改善

下水道整備で便所の水洗化が可能となり、衛生的で快適な生活を送れるだけでなく、し尿などは下水処理場で効果的に処理され、生活環境の改善が図られる。

公共用水域の水質保全

下水道が汚水を収集、運搬、処理することで、河川などの公共用水域の水質汚濁防止に積極的な役割を果たし、公共用水域の水質保全を図る。

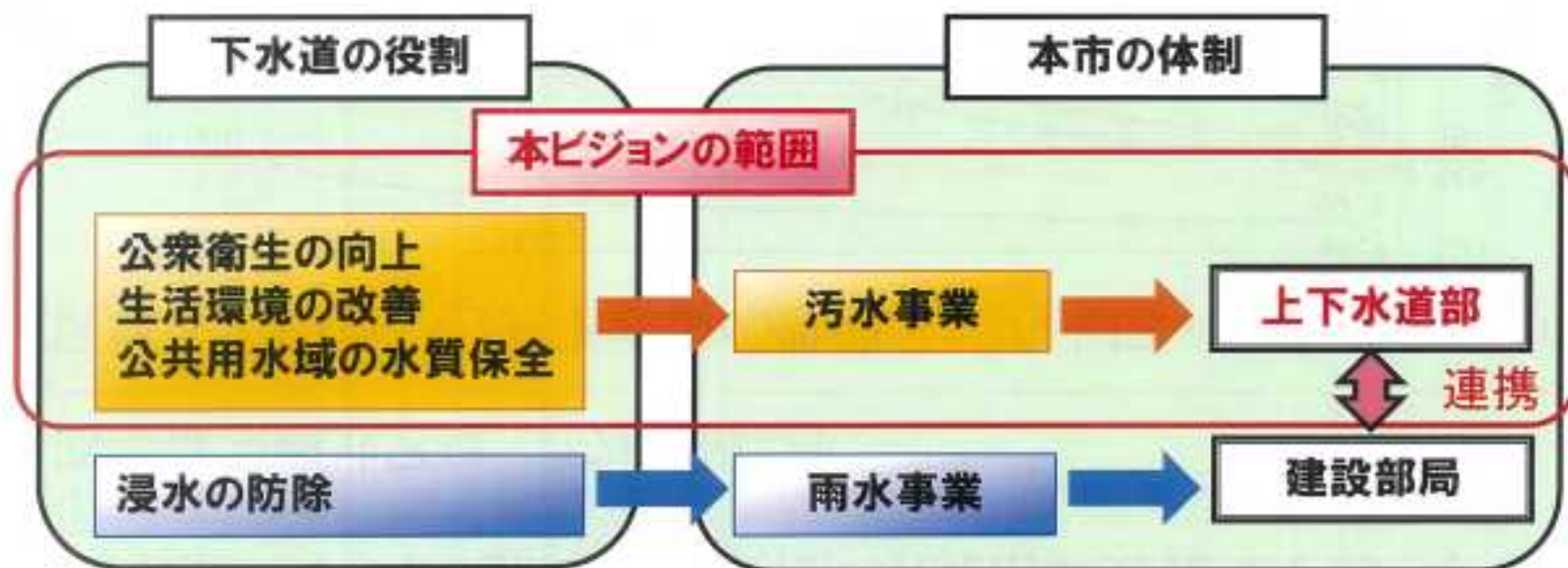
浸水の防除

(本ビジョンでは対象外)

都市に降った雨の排除により、浸水被害を防除する。

1. 下水道の役割

本市における雨水事業は建設部局が担当しており、本ビジョンでは汚水事業の施策のみを対象としている。

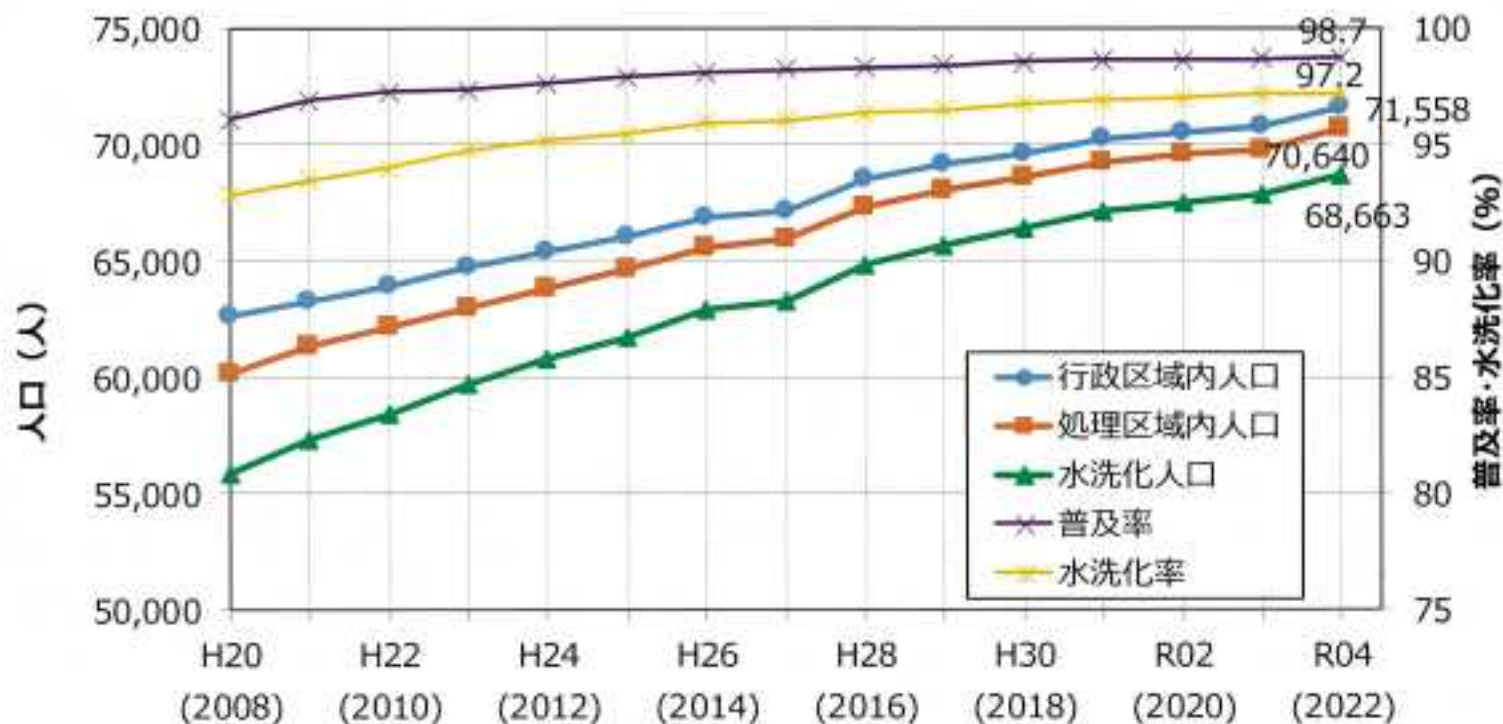


2. 下水道事業の沿革

下水道事業

- 京田辺市の公共下水道は、昭和54年にスタート
- 令和4年度末で、人口普及率98.7%、水洗化率97.2%であり、整備はほぼ完了
- 下水道整備困難地区は、17箇所存在

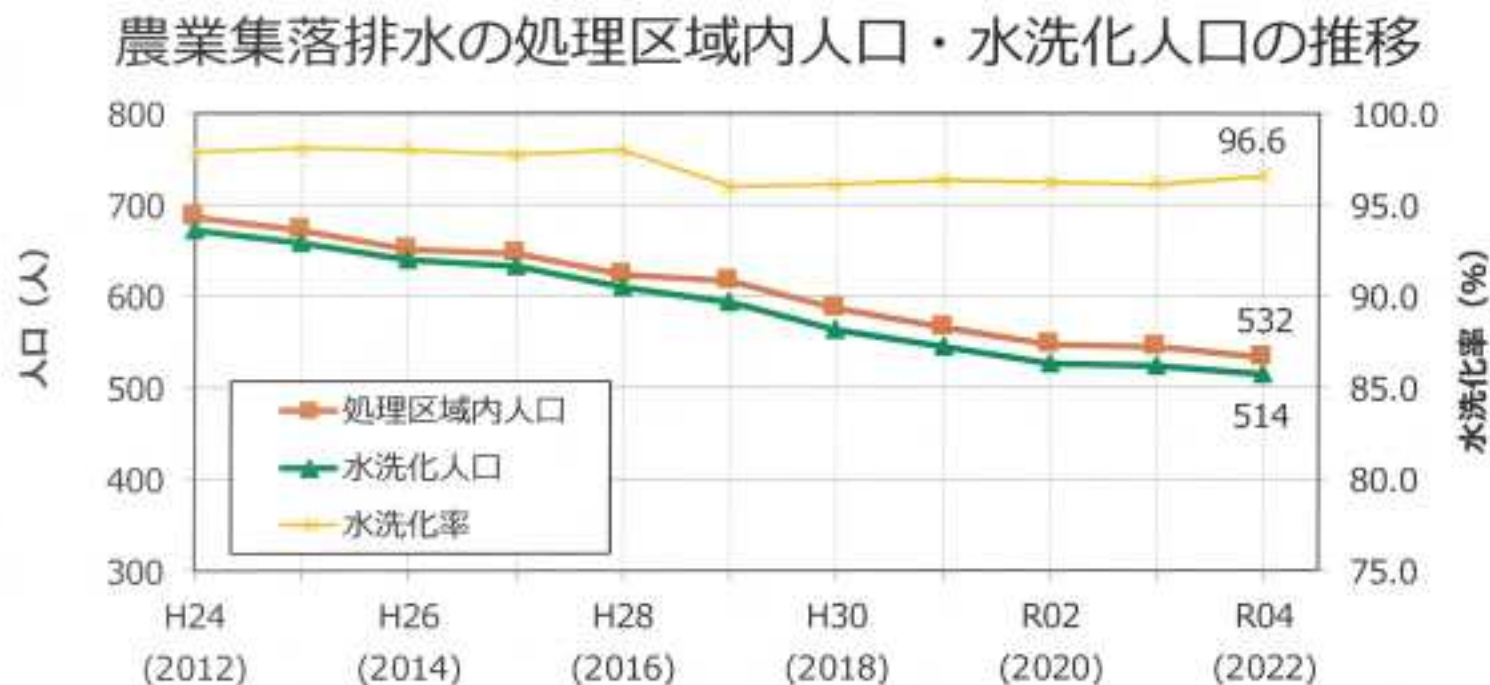
行政区域内人口及び公共下水道の処理区域内人口・水洗化人口の推移



2. 下水道事業の沿革

農集排水事業

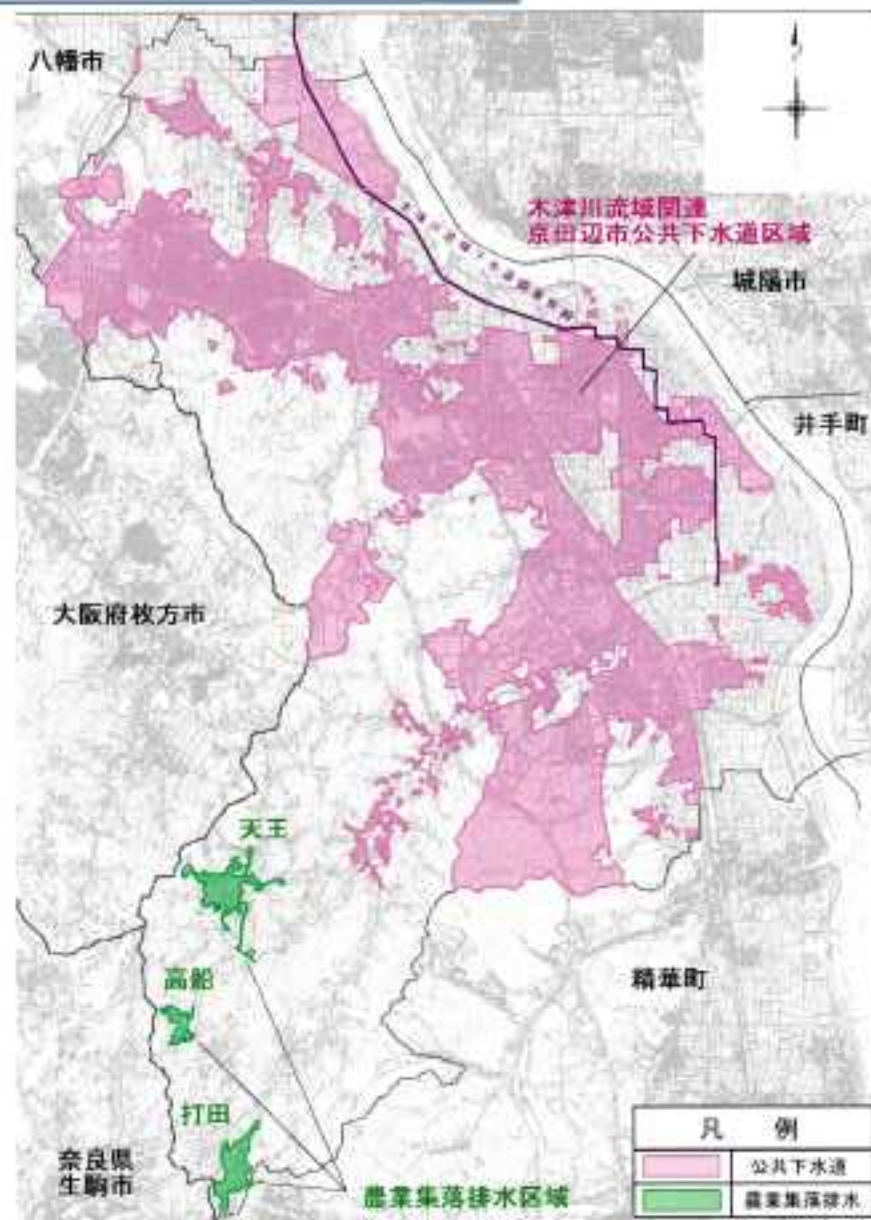
- 農業集落排水事業の人口普及率は令和4年度末現在100%、区域内の水
洗化率は96.6%
- 農業集落排水事業の区域内人口は減少傾向



3. 下水道施設の状況

- 公共下水道事業は、京都府木津川流域下水道の洛南浄化センターで処理する流域関連公共下水道である（京田辺市、京都市、宇治市、城陽市、八幡市、木津川市、久御山町、井手町）
- 農業集落排水事業は、打田、天王、高船の3地区で処理施設の整備を完了
- 排除方式は、汚水と雨水を分ける「分流式」である

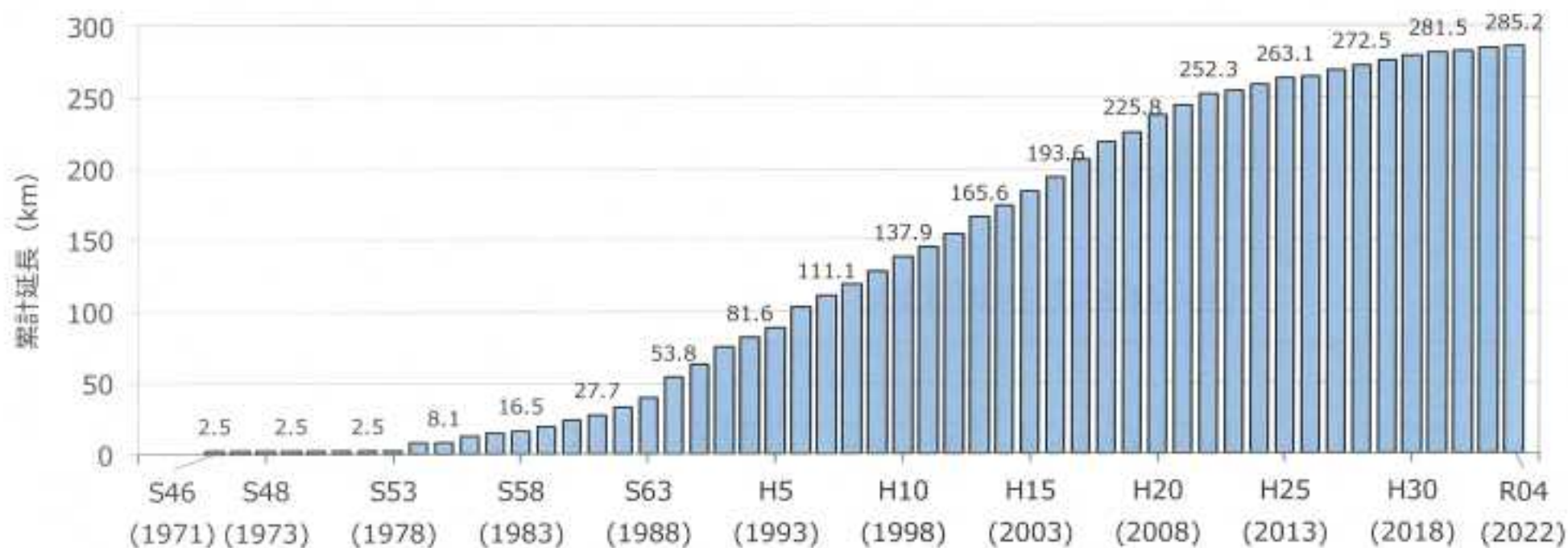
※雨水事業については、ここでは対象外とする。



3.下水道施設の状況

- 管路布設延長は約285.2 km

管路の布設年度別累計延長



3. 下水道施設の状況

- 公共下水道管路を短期間で集中して整備
- 全布設延長は285.2km
- 今後、耐用年数（50年）を超過する管路が増加
- 下水道ストックマネジメント計画に基づき、松井ヶ丘地区等において管路の改築・更新を実施中

管路の布設年度別延長（令和4年度末時点）



参考：京田辺市下水道ビジョン（R2.4）P.42 図4.5布設年度別管路延長の推移
京田辺市下水道事業経営戦略（R2.4）P.34 図4.2布設年度別管路延長の推移

3.下水道施設の状況

下水道事業

- 処理水量は、近年微減傾向
- 有収水量は、ほぼ横ばい傾向
- 有収率はH30以降減少傾向であったが、近年上昇している

年間有収水量及び有収率の推移



出典：京田辺市下水道ビジョン（R2.4）P.35 図3.18下水道有収水量・処理水量の実績
京田辺市下水道事業経営戦略（R2.4）P.6 図2.4年間有収水量・処理水量の実績

